

令和3年1月22日 校長 高倉 満

□めざす生徒の姿に近づいていますか？

昨年4月、緊急事態宣言の中、職員も生徒も不安でした。臨時休校に分散登校、先生方の献身的な家庭訪問暗中模索の中、職員で協力し、知恵を出し合いながら乗りきってきました。でもそんな状況であっても生徒達の期待に応えようと、先生方も新しい学年のスタートに期待で胸を膨らませていたと思います。私たち職員全員が同じ気持ちだったと思います。今、卒業や進級を前にして、私は「先生方や生徒の為の楽しい学校経営ができたろうか」「先生方が生徒一緒になって頑張れる浮羽中に近づけることができたろうか」と考えています。先生方はどうでしょうか。大変ではあったけど自分が思っていたような学級経営や授業ができたでしょうか。

○「学級開き」で、どんな事を伝えましたか？

良い学級の条件として、読んだ本に次の4点が書かれていました。

- ①動きが軽やか（数秒で話し合い、素早く行動できる）
- ②ちょうどいい声（休み時間はキャーと言っているが、授業中はシーンではダメ）
- ③笑顔がある。良い意味で笑いが出せる。
- ④プラスの言葉が溢れている。

いじめや授業規律にしても、教師集団がぶれないことが大切ですが、教師だけでは解決できません。最初は担任がリードしても、リーダーの生徒を育てながら、該当する生徒や気になる生徒だけの課題とせず、学級で話し合いを重ね、「自分達のクラスは自分達で良くする」という生徒を増やしていく必要があります。一人の教師の力よりも、クラスや友達の仕事に関心の高い生徒を多く育てることで、自信のある安心した学級が育つと思います。だから、最後まで生徒の自治力をつけるように努力しましょう。

○「この教科でつきたい力」はついていますか？

年度末の授業でよく「楽しかった授業の単元は？」「思い出に残っている授業は？」「1年間の授業を通して、あなたが学んだことは何？」などのテーマで一年間を振り返らせることがあります。

「テストの点数が上がった」「入試に必要な力がついた」などの内容もいいですが、「自分の意見を論理的に説明できるようになった」「本を読むのが楽しくなった」「英会話で自分を表現できるようになった」など先生方が教科の魅力について伝えなかったことが多く書かれてあると、嬉しくてたまらないでしょうね。先生方の教科にかける思いは、きっと思っている以上に生徒に伝わっていると思いますよ。

□大学入学共通テスト終わる！

大学入学共通テストが実施されました。出題内容に関して高校入試問題の変化と同じような文言がたくさんありました。「思考力・判断力・表現力」が重視された問題が多く出題されていました。

- ・センター試験と比べて思考力や判断力を重視した。
- ・地歴公民では写真や表、グラフが多用された。
- ・会話形式も多く、日常での知識活用を求めた。
- ・国語では小説と批判文を組合せ、読解力を測る出題があった。
- ・英語の筆記は文章を読む形式での設問が多く、身近な題材で語学力を問うた。

○同じように高校入試も変わってきました。・「表現する量」の増加。・「読む量」の増加・「考えさせて表現させる問題」の増加・「情報を活用できる力」が必要となっています。私たちは、今まで通り主体的・対話的で深い学びの実現を目指す授業改善に取り組んでいきましょう。学習したことを使って課題を解決していくような授業（活用）、友達の考えの根拠を考えるような授業、分からないことやできないことを認め合い、何が分からない、できない要因なのかをみんなで考える授業を大切にしていきたいと思います。

☆**深山先生 お疲れ様でした！**授業研に向けて時間をかけ指導案作成や教材研究、ICT活用の工夫等、本当にありがとうございました。また前日は授業参観と放課後の反省会、先生方の深山先生を支える気持ちに感動です。このコロナ禍の中、一年を通して授業研や授業交流等を実施できたのも研修部はもちろん先生方の協力があったからこそです。心から「チーム浮羽」を実感しています。来年度も大切につなげてください。